月刊

RIPPLE

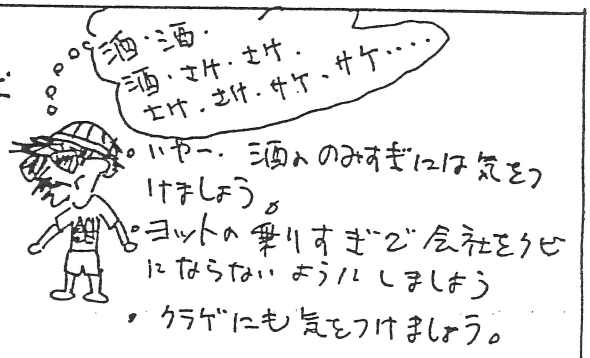
RIPPLE SAILING CLUB

1987年7月15日　No. 58

（発行）　500円
リプル・セイリングクラブ
〒238−03
神奈川県横須賀市長井2−11−1
℡ 0468−57−1711

夏本番

体には気をつけましょう



暴飲暴食で有名な”アイアン・ストマック”こと塩野谷由幸氏であったが、とうとうその胃袋にも穴が空き、7月6日、横須賀市民病院に入院した。

市民病院といえば、3年前、記者が腐った豆腐に当たって腹いたを起こ　係、お世話になった総合病院である。（ゼネラルホスピタルっていうヨットがあったの覚えてる？ファーの40フィート。白いハルに赤十字のマークが入ってて、クルーは全員ブルーの手術着を着ていました。関係ないか。）

7日夜、記者はさっそく大木さんら3人と見舞いに行ったのであった。消化器系の病人ばかり集まった病室なので、ルームメイト（ちょっとへんかな？）は皆顔色が悪く、やせ衰えている人ばかり。七夕の飾りがやけに侘しいのであった。

腕の辺りに透析の袋をぶら下げたまま、のたりのたりと歩くじいさんや、千羽鶴を空しく枕元に飾るとっつあんなど、そこにいるだけで具合いが悪くなりそうな雰囲気であったが、一人塩野谷氏だけは体もでかく、顔色もよし、胃潰瘍どこ吹く風と言った、異色の入院患者である。それでも「おとうさん、はやくよくなっておうちにかえってください」などとこたどしい字で書かれた、子供達からの手紙などが、枕元に置かれてあり、何処か寂しいものだ。本人も「6時に夕食だろ。やることなくてさ、まいっちゃうよ」と、こぼしてはいるが、「退院したら、とりあえず冷たいビールをグイーッとやりたいなあ、高槻」と、懲りない塩野谷氏であった。

2、3週間の入院とのことであるが、生だるでも持ってお見舞いに行こう。

町の声を聞いてみた。

「あら、そうなの。」中川商店のおばあちゃん

「天罰って感じしない？」五十嵐マリン・五十嵐氏

「イカイヨーってなーに？」ひろみ

「胃が痒いのかしら」長谷川妻

「・・・・・」長谷川夫

「あ、そう。で今度のレースだけどさ・・・」赤木

「早く良くなってください」AIU・中村

なお、長浜は今までどうり営業しております。

おわび……

まだつゆもあけてないのに ムシムシとあつくて、このリプルニュース作りもはかどりません。頭がボーっとしてて、何書いてるのかわけわかんなくなってもちゃって どーしよーもなくなってしまいました。あーソーメンとか食いてーぇ。

ヨット駅伝はたいへんなのだ!!

夏の祭り、ヨット駅伝が今年も行われた。

今年は例年とは趣向を変え、長浜でリレー形式で行われたのであるが、このリレー形式というところが癖者で、浜に設けられたタッチゾーンまで10人の選手がヨットを担いで走り回る様は、かなり異常である。

ほとんど喧嘩御輿の雰囲気で、大いに盛り上がったのであるが、なにしろ1カ月近くも前の事でもあり、詳しい内容に付いては記者はあまり記憶にない。ごめんなさい。

おもしろかったのは確かです。来年も出ましょう。

あぁ、カップはいづこへ

去年の秋、覚えているだろうか。
あの長浜カップがファーイーストに持ちさらわれたのを。
悔しいではないか。勝ち続けていた我がリプルチームが、なんでファーイーストに負けなきゃなんないんだ。
何としても勝つと心に決めて臨んだ第４回の対抗戦は６月１４日、梅雨時にしてはなかなかの上天気のなか２０数名の参加を見て行われた。
第一レースは２回に渡るゼネラルリコールの後、かなりの混乱と共に切って落とされた。
先頭集団はリプルの長谷川、ファーイーストの新、市川らで形成された。
リプルチームは心細い次第。
ょスタートで遅れを取るし、他の選手もいま一歩スピードが上がらない。
結局第一レース、第二レースともにファーイースト勢にしてやられ、カップは再びファーイーストの元にいったのであった。
個人優勝こそリプルの長谷川が手にしたが、それにしても情けない成績であった。
余りの成績の悪さに、詳しい内容は省くが、当日お見合いの為欠席した大木選手が出場していれば、どうにかなったとも思われ、敗因はすべて大木選手にあると言えよう。
「大木さーん、いったいこの責任はどうするつもりよ。」
「わりと、おとなしそうな人でさあ・・・」
「大木さんが出て、５位以内に入ってれば勝てたんだよ。」
「コード鑑賞が趣味なんだって。」
秋の対抗戦は絶対に休まないでよ。」
「けっこう美人だよ。」
「・・・・・」

だいじな お知らせ

例年の通り、夏期使用料金を下記のように徴収いたしますので宜しくお願いいたします。

ボードセイリング	２名
縦置き艇	２名
横置き艇	３名

まで、無料。
この人数を越える場合、１名につき￥１０００いただきます。
出艇ノートに記入する際、；お支払い下さい。

カタぎりくん
第一話
作 タカツキカズヒロ
そんなカタギリのユリをカワイイと思うヒロミであった。
そんなヒロミのタイドにヤキモチをやくスギタユキノブであった。
まけずにパワーを引き上げてハイレグにするユキノブであった。
一日３回は海を往復するのだ。」
そこで今年は自分もハイレグにしてみたのである。
うしろ姿が(女)
ヤーンスギちゃん来たなーい。へんなもん見せないでよー。
ハイレグかけもとカタギリのもの。
海が好きなカタギリミオ(23才)は
(はかり)
(ユキノブ)
(ミオ)
(ミカ)
(ヒロミ)
(ユリ)
(タイド